

✓

整理番号:76210157 発送番号:111277 発送日:平成16年 3月31日 1

拒絶理由通知書

✓

特許出願の番号	特願2000-082575
起案日	平成16年 3月23日
特許庁審査官	橋本 直明 9707 2G00
特許出願人代理人	金田 暢之(外2名) 様
適用条文	第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

[理由1]

この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記

請求項1に「前記第1の維持ドライバ回路と前記第2の維持ドライバ回路とを接続する中継手段とを有する」という記載があるが、各ドライバ回路のどの部分とどの部分を接続するのかが不明である。

また、漠然と「接続する」としているので、電気的な接続以外にも固定用の接続なども含まれるものとなっており、特許を得ようとする発明を特定することが困難である。

よって、請求項1-8に係る発明は明確でない。

[理由2]

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

BEST AVAILABLE COPY

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

【請求項1-8について；引用文献1-3】

(備考)

整理番号:76210157 発送番号:111277 発送日:平成16年 3月31日 2/E

<請求項1-2, 8について; 引用文献1>

引用文献1に記載されたプラズマディスプレイパネルの駆動回路は、第1の維持ドライバ回路と第2の維持ドライバ回路とを接続する中継手段(コイルL1, L2をふくむ経路)とを有している。

また、本願発明の回路構成における第1のスイッチング素子(SW4)、第2のスイッチング素子(SW3)、第3のスイッチング素子(SW11)、第4のスイッチング素子(SW2)、第5のスイッチング素子(SW1)、第6のスイッチング素子(SW10)、第1のコイル(L2)、第2のコイル(L1)に対応する回路構成も備えている。引用発明では駆動電圧に負電圧を採用しているため、電位の極性について逆転しているが、駆動電圧の極性の変更は何ら技術的意義を有さない。

<請求項3-7について; 引用文献1-3>

電源への電流逆流防止のためのダイオードを設ける点や、駆動信号経路に電圧クランプ用のダイオード回路を設ける点は、引用文献2, 3に開示されているように、周知技術である。

引用文献等一覧

1. 特開平10-149131号公報

~~2. 特開平10-085705号公報~~

3. 特開平10-319893号公報

この拒絶理由通知の内容に問い合わせがある場合、または、この案件について面接を希望する場合は、特許審査第一部ナノ物理の橋本までご連絡下さい。

TEL 03-3581-1101 (内線3225)、FAX 03-3592-8858

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 IPC第7版 G09G3/28
- ・先行技術文献

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

BEST AVAILABLE COPY